

第一印象形成に与える影響について

— 髪型と表情に着目して —

スポーツコミュニケーションゼミナール 1314023 小林 慎

1. 研究動機・研究目的

見た目から受ける第一印象は重要である。そして、一度他者に決められてしまった自分自身の印象を変えるのは難しい。「人は外見ではなく、中身だ」という言葉をよく耳にする。が、相手によって決定された第一印象を払拭することは容易ではない。第一印象で相手に好感を抱いてもらえなければ、その後も良い印象を持たせることもまた難しくなるのだ。さらに、見た目から決定された第一印象が好意的なものであるか否かで、その後どのように接していくかもまた、決定されてしまうことがある。つまり、見た目というのは、内面を知ってもらうための機会ともなり得るものなのだ。これらの事実を考慮すると、初めての接触がいかにか大切なものであるかが理解できる。そうであるならば、見た目に細心の注意を払い、好感を抱いてもらえるよう整えた方が良いと言える。

そこで本研究では、見た目から受けとる第一印象を決定する上で重要となる、髪型（短髪、長髪）と表情（真顔、笑顔、しかめ顔）に着目し、他者に好感を抱いてもらえるような第一印象を形成するには、それらをどのように心がければ良いのか明らかにするため、本研究に着手した。

2. 研究方法

【調査対象】 J大学の学生 110名(男性 69名、女性 41名)。

【調査期間】 2017年7月17日、10月2日の2日間。

【調査方法】 同一人物において、性別（女性・男性）と髪型（短髪・長髪）と表情（真顔・笑顔・しかめ顔）の3因子を組み合わせた、合計12種類のサンプルを性別ごとにランダムに配置した質問紙を配布し、調査を実施した。

【調査内容】 個人的属性、t検定で用いた印象評定の項目は、末田・福田(2003)の相貌特徴と印象の関連性についての表から抜粋した好ましい印象を表す形容詞8項目

3. 主な結果と考察

表情のみに着目したものの検証結果を比較してみると、「笑顔」からは「明るい」「親しみやすい」といった印象を受けやすいようである。「真顔」では「意志の強い」、「落ち

着いた」、「素直な」といった項目が高い得点であった。「しかめ顔」では、「意志の強い」、「自信のある」の2つの項目において高い数値を示した。

2 因子を掛け合わせたサンプルでは、性別と髪型を掛け合わせたもののうち、女性×長髪(男: 3.00、女: 2.86)、男性×短髪(男性: 3.24、女性: 3.05)となり、有意な差が見受けられた。いずれも男性の方が得点の平均値が高く、女性×長髪と男性×短髪に対して、女性よりも男性の方が好意的な印象を抱くと考えられた。また、性別と表情を掛け合わせたサンプルのうち、男性×真顔(男性: 3.14、女性: 2.92)に対して有意な差が認められた。女性よりも同性である男性の方が、より良い印象を抱くと言えるだろう。さらに、髪型と表情を掛け合わせたサンプルでは、短髪×真顔(男性: 3.33、女性: 3.16)、長髪×真顔(男性: 3.07、女性: 2.89)の2つで有意な差が認められた。どちらも真顔であることを考慮すると、短髪である時の方が男女ともに平均値が高く、真顔である時は短髪の方が好感の持てる印象だと言える。

3 因子を掛け合わせたサンプルでは、「女性×短髪×笑顔」のサンプルに対し、男性は「男性×短髪×笑顔」に対して最も高い得点であったことから、男女とも同性の短髪で笑顔の人に対して、最も好意的な印象を抱くことが考えられた。また、男女とも最も低い平均値の平均となったのが、「女性×短髪×しかめ顔」(男性: 2.03、女性: 1.91)で一致していた。つまり、12 種類すべてのサンプルの中で最も好意的ではない印象をこのサンプルから受けたと言える。

4. 結論

3 因子の組み合わせによって印象は異なったが、いずれも表情による影響が大きいと考えられた。「真顔」を含むサンプルでは、表情がプラスともマイナスとも捉えられないため、印象差を生み出しているのは性別と髪型であると考えられた。また、「笑顔」を含むサンプルからは、表情が好意的であるため、それから受ける影響が最も大きく、好印象に繋がると考えられた。さらに、「しかめ顔」を含むサンプルでは、男女とも低い得点を示しており、「しかめ顔」という好意的には捉えられない情報が、相手に対して最も強く影響を与えたと考えられた。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文を執筆するにあたり、熱心なご指導を頂いた伊藤助教、そしてアンケートにご協力頂いた学生の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。この論文の執筆活動を通し、私自身多くのことを学び、これから社会人として歩む私にとって、大いに役立てることが可能な知識を得ることができました。研究結果で最も好感の持てる印象であることがわかった、「笑顔」でいることを意識して、自身の仕事に精進していきます。